

科目番号 42

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・ 専門分野Ⅱ ・ 統合分野 ・ 臨地実習			
授業科目	成人看護学目的・対象論	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 15 時間/ 7 回			
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	必修 ・ 選択	年次・開講時期	1 年次・前・後期	
履修条件	有 ・ 無 ( )			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		有 ・ 無 ( 看護師 )		
		有 ・ 無 ( 看護師 )		
		有 ・ 無 ( 看護師 )		
学習目的と到達目標				
<p>〈学習目的〉</p> <p>成人看護の概念、特性を理解し、成人期にある対象の健康や健康問題に対応するための看護の基本的な考え方や方法を学ぶ。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>1. 成人看護の概念、特性を理解できる。</p> <p>2. 成人の発達課題と特徴を理解できる。</p> <p>3. 成人保健の動向から健康問題について理解できる。</p> <p>4. 成人看護にまつわる倫理的課題を知り、看護の役割を理解できる。</p> <p>5. 成人看護学に有効な理論の概略を理解し、成人の理解と看護に有効であることがわかる。</p>				
授 業 計 画				
回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	成人看護の概要 成人期にある対象の特徴	1) 成人看護学の特徴と目的 2) 成人とは 3) 成人の役割 4) 成人の生涯発達に影響を与える要因	講義	
2	成人期にある対象とその特徴	1) 成人看護の対象 2) ライフサイクルからみた成人期 3) 成人期の区分と発達課題 4) 成人期の身体的特徴 (1) 身体に加齢に伴う変化 (2) 成人期のセクシュアリティ 5) 成人期の心理的・社会的特徴 (1) アイデンティティ・自己概念 (2) 家族の形成と家族における役割 (3) 社会における役割 (4) 身体的/社会的特徴が精神面に与える影響 3) 成人各期の健康問題 (1) 青年期の特徴と健康問題 (2) 壮年期の特徴と健康問題 (3) 向老期の特徴と健康問題	講義	
3・4	成人保健の動向と成人各期の健康問題	1) 健康指標からみた成人の特徴 (1) 人口の動向 (2) 死亡と死因 (3) 疾病構造と受療の動向	講義	

回数 (1回 90分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
3・4	成人保健の動向と成人各期の健康問題	2) 生活からみた成人の特徴 (1) 世帯構成 (2) 仕事と職業 (3) 経済生活 (4) 生活環境	講義	
5	成人の健康観	1) 健康観 (1) 個人の健康観に影響を及ぼす要因	講義 GW	
6・7	成人看護額における看護理論の応用と成人看護における倫理	1) 成人期にある対象の特性や能力に応じたアプローチを行うための有用な概念 (1) セルフケア (2) 自己効力感 (3) コンプライアンスを高める方法 (4) 病みの軌跡 (5) ストレスと健康障害 (6) コーピング (7) 危機理論：フィンク、アギュララとメズイック 2) 医療現場における倫理的課題	講義	
8	終講試験 筆記（60分）		試験	
授業内訳	講義・グループワーク含む：7回（14時間） 試験：1回（1時間）			
準 備 学 習 等				
<b>&lt;予習について&gt;</b> ・基礎看護目的論、基礎看護対象論の内容を復習し授業に臨むこと ・3回目講義のはじめに成人各期の特徴について復習テストを行うので1, 2回目講義の内容を復習して臨むこと ・4回目講義では、国民衛生の動向を使用する（8月末に購入予定）。最新データで予め日本の人口、男女の平均寿命、高齢者の割合を調べて臨む。 ・毎回の講義の初めに前回までの復習を設けているが、前回までの内容をふまえて講義を進めていくため予習に加え、復習を必ずして臨むこと				
成績評価の方法	筆記試験（100％）			
テキスト	小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 2019 安酸史子他編：ナースング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント メディカ出版			
参考図書	国民衛生の動向 生活習慣病のしおり ーデータで見る生活習慣病ー 社会保険出版			
備 考	本科目は2年次成人看護学臨地実習Ⅰの履修前提条件となる。 基礎看護学目的対象論、心理学、公衆衛生学等の科目との関連がある。 講義前半は、発達課題、社会情勢から成人期にある対象の特徴を理解する。後半は成人期にある対象の個別な価値観を理解する。成人期にある対象に応じた介入方法として、看護理論を活用し援助方法を学習する。			
国家試験出題基準	必修問題 目標Ⅰ-1-B-a～i 目標Ⅰ-1-C-a～e 目標Ⅰ-2-A-a～j 目標Ⅰ-2-B-a～c 目標Ⅰ-2-C-a～c 目標Ⅰ-3-A-c 目標Ⅰ-4-A-a～c 目標Ⅰ-4-B-a～e 目標Ⅰ-4-C-b	必修問題 目標Ⅱ-7-E-a～d 目標Ⅱ-7-F-a～c 目標Ⅱ-8-A-a, b 目標Ⅲ-11-B-a～d 目標Ⅳ-13-A-a, b 目標Ⅰ-2-C-a～c	健康支援と社会保障 目標Ⅰ-1-A-a～c 目標Ⅰ-1-B-a 目標Ⅰ-1-C-a～f 目標Ⅰ-2-A-a, b 成人看護学：目標Ⅰ全て	

科目番号 43

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・ <b>専門分野Ⅱ</b> ・ 統合分野 ・ 臨地実習			
授業科目	成人看護学方法論Ⅰ	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 15 時間/ 7 回			
授業の種類	<b>講義</b> ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・ 選択	年次・開講時期	1 年次 ・ 後期	
履修条件	有 ・ <b>無</b> ( )			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
学習目的と到達目標				
<b>〈学習目的〉</b> 成人に特有な健康問題の特徴を理解し、健康の保持増進、疾病の予防に向けた看護方法を学ぶ。 セルフマネジメントの基本的な考え方を理解し、慢性疾患をもち生活する成人への支援方法を学ぶ。				
<b>〈到達目標〉</b> 1. 成人期の保健予防活動を理解できる。 2. 成人の健康に影響する要因と健康問題を理解し、健康生活をはぐくむ活動を理解できる。 3. セルフマネジメントについて理解し、それを支える諸理論の概要が理解できる。 4. セルフマネジメントを支援する看護方法を学ぶ。				
授 業 計 画				
回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	成人期の保健予防 行動	1) 成人の健康とは 2) 疾病の予防 3) ヘルスプロモーション (1) 施策の変遷と対応 4) 成人への健康教育	講義	
2	健康増進のための環 境づくり	1) ヘルスプロモーションと疾病予防 2) 個人の主体的な健康づくり 3) ヘルスリテラシー	講義	
3	保健医療福祉に関わ る対策	1) 健康日本 21 と健康増進法 2) スマートライフプロジェクト 3) がん対策基本法	講義	
4・5	成人の健康に影響す る要因と健康問題	1) 労働者の健康 (1) 労働と成人の健康生活 (2) 労働者に対する保健活動 (3) 職場における健康診断 2) 職業性疾病の予防と対応 (1) 労働衛生対策の基本 (2) 職場の環境要因と健康問題 (3) トータル・ヘルス・プロモーション・プラン と産業保健 (4) ストレス関連疾患と予防と対応 3) 生活習慣と成人の健康生活 (1) 健康と運動 (2) 健康と栄養 (3) 健康とたばこ	講義	

回数 (1回 90分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
4・5	成人の健康に影響する要因と健康問題	(4) 健康とアルコール (5) 健康と休養・ストレス 4) 生活習慣・ストレスに関連する健康障害 5) 主な生活習慣病・ストレス病対応	講義	
6・7	セルフマネジメント	1) セルフマネジメント支援の理論と実践 (1) セルフマネジメントとは (2) アンドラゴジー (成人教育学) (3) 自己効力理論 (4) 健康信念モデル (5) 行動変容ステージモデル	講義	
8	終講試験 筆記 (60分)		試験	
授業内訳	講義・グループワークを含む：7回 (14時間) 試験：1回 (1時間)			
準 備 学 習 等				
<p>&lt;予習について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基礎看護目的論、基礎看護対象論の内容を復習し授業に臨むこと</li><li>・成人目的対象論の内容を復習して臨むこと</li><li>・毎回の講義の初めに前回までの復習を設けているが、前回までの内容をふまえて講義を進めていくため予習に加え、復習を必ずして臨むこと</li></ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業内で紙面事例を用いて個人ワーク、グループワークを行う。他者の意見を聞くことで、視野が広がるとともに人それぞれの感じ方、価値観があることの気づきを体験してほしい。自身の価値観だけは対象理解することの難しさを考える機会とする。</li></ul>				
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			
テキスト	小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 2019 安酸史子他編：ナースング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント メディカ出版			
参考図書	国民衛生の動向 生活習慣病のしおり ーデータで見る生活習慣病ー 社会保険出版			
備考	成人看護学目的対象論, 基礎看護学目的対象論, 心理学, 公衆衛生学等の科目との関連がある。			
国家試験出題基準	必修問題 目標Ⅰ-2-A-h, C-a, b 目標Ⅰ-3-B-a, b, d 目標Ⅱ-9-B-e 目標Ⅲ-11-B-a, b, d 健康支援と社会保障 目標Ⅰ-1-C-c～d 目標Ⅰ-2-B-a, b 目標Ⅱ-4-B-c 目標Ⅱ-5-B-c, E-b 目標Ⅲ-7-A-d, e, C-g		健康支援と社会保障 目標Ⅲ-10-A-b 目標Ⅲ-11-A～B 成人看護学 目標Ⅰ-2-A, B	

科目番号 44

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・ <b>専門分野Ⅱ</b> ・ 統合分野 ・ 臨地実習			
授業科目	成人看護学方法論Ⅱ	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 30 時間/ 15 回			
授業の種類	<b>講義</b> ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・ 選択	年次・開講時期	2 年次 ・ 前後期	
履修条件	有 ・ <b>無</b> （ ）			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 （ 看護師 ）		
		<b>有</b> ・ 無 （ 集中ケア認定看護師 ）		
		<b>有</b> ・ 無 （ 看護師 ）		
		<b>有</b> ・ 無 （ 看護師 ）		
学習目的と到達目標				
〈学習目的〉 急性の経過をたどる成人の特徴を理解し、健康危機状況に応じた看護方法を学ぶ。				
〈到達目標〉 1．周手術期にある成人の特徴を理解できる。 2．周手術期における看護の役割を理解できる。 3．主な手術を受けた成人への看護を理解できる。 4．生命危機状況にある成人の特徴を理解できる。 5．生命危機状況にある成人への看護を理解できる。 6．循環機能障害を持つ成人の特徴を理解できる。 7．循環機能障害を持つ成人への看護を理解できる。				
授 業 計 画				
回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	周手術期にある成人の看護①	周手術期看護の特徴 1．手術を受ける患者の特徴 2．周手術期における看護の役割	講義	
2	周手術期にある成人の看護②	手術前の看護 1．術前の評価 2．手術前の不安に対する援助 3．全身状態の調整 4．手術前オリエンテーション 5．家族への支援 6．手術直前の看護	講義	
3	周手術期にある成人の看護③	手術中の看護 1．手術室看護の役割 2．手術中の看護	講義	
4	周手術期にある成人の看護④	手術後の看護 1．手術直後の看護 2．術後合併症予防 3．疼痛管理	講義	

回数 (1回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
4	周手術期にある成人の看護④	4. 早期離床の促進 5. 日常生活援助 6. 心理的支援 7. 退院指導 8. 家族への援助	講義	
5	周手術期にある成人の看護⑤	感染予防とその対策	講義	
6	主な手術を受けた成人の看護①	開腹術を受けた成人の看護 1. 消化・吸収機能障害を持つ成人の特徴 2. 開腹術と看護の要点 3. 胃切除術を受けた成人の看護	講義	
7	主な手術を受けた成人の看護②	腹腔鏡下手術を受ける患者の看護	講義	
8	主な手術を受けた成人の看護③	開頭術を受けた成人の看護	講義	
9	生命危機状況にある成人の看護①	救急救命看護の特徴 1. クリティカルケア 2. クリティカルケアにおける看護の役割	講義	
10	生命危機状況にある成人の看護②	生命危機状況にある成人の身体的特徴と看護 1. 呼吸・循環の停止 2. 意識障害 3. ショック 4. 臓器の機能不全	講義	
11	生命危機状況にある成人の看護③	生命危機状況にある成人の身体的特徴と看護 1. 心理的機器対処プロセスと危機介入 患者家族の特徴と看護	講義	
12	循環器障害を持つ成人の看護①	循環器障害を持つ成人の身体的特徴と看護 1. 循環機能障害の症状に対する看護 2. 循環器系の検査と看護	講義	
13	循環器障害を持つ成人の看護②	循環機能障害を持つ成人の心理社会的特徴と看護	講義	
14	循環器障害を持つ成人の看護③	循環機能障害を持つ成人の看護 1. 急性心筋梗塞患者の看護 2. 心臓リハビリテーション	講義	
15	終講試験 筆記 (60 分)		試験	
授業内訳	講義：14 回 (28 時間)                      試験：1 回 (2 時間)			
準 備 学 習 等				
<p>&lt;予習について&gt;</p> <p>該当テキストを熟読し、教科書の内容に理解をしておくこと。教員が示した疾患や治療があった際には、関係する臓器の解剖生理や疾患・治療について学習すること</p> <p>&lt;復習について&gt;</p> <p>授業内容の振り返りとともに、参考図書・引用参考文献により授業内容の理解を深める。さらにテキストの注釈の理解を進める。</p>				
成績評価の方法	筆記試験 100%			
テキスト	・系統看護学講座 別巻 1 臨床外科看護総論 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 2 臨床外科看護各論 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 4 救急看護学 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 ・系統看護学講座 専門 7 成人看護学「3」 循環器 医学書院			

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門 15 成人看護学 [11] 感染症 医学書院</li> <li>・系統看護学講座 専門 9 成人看護学 [5] 消化器 医学書院</li> </ul>	
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と成人の周手術期看護 2 術中／術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版</li> <li>・高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術／腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医歯薬出版</li> <li>・看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 急性・クリティカルケア看護 メヂカルフレンド社</li> <li>・ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周手術期看護 メディカ出版</li> <li>・周術期看護 安全・安楽な看護の実践 インターメディカ</li> <li>・成人看護学 周手術期看護論 ヌーベルヒロカワ</li> </ul>	
備考	・授業内容の進捗状況や他の科目との関連より、授業内容を変更する場合がある。	
国家試験出題基準	必須問題 目標Ⅲ-10-B-a～d 目標Ⅲ-11-A-a～s 目標Ⅲ-11-B-b 目標Ⅳ-13-C-A～e 目標Ⅳ-16-G-a～h 目標Ⅳ-16-H-b, c 人体の構造と機能 目標Ⅰ-11-B-a～g 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅲ-4-C-a, c, d 目標Ⅳ-6-A-b～h 目標Ⅳ-6-D-a～c	成人看護学 目標Ⅱ-3-A-a～c 目標Ⅱ-3-B-a, b 目標Ⅱ-3-C-a～c 目標Ⅱ-4-A-a, b 目標Ⅱ-4-B-a～f 目標Ⅱ-5-A-a～f 目標Ⅱ-5-B-a～d 目標Ⅱ-5-C-a～d 目標Ⅱ-5-D-a～e 目標Ⅱ-5-E-a～d 目標Ⅳ-11-A-a～c 目標Ⅳ-11-B-a～d 目標Ⅳ-11-C-a～f 目標Ⅳ-11-D-a～e 目標Ⅳ-12-C-c～h 目標Ⅳ-12-D-b～d 目標Ⅳ-13-C-e 目標Ⅳ-17-C-a～g

科目番号 45

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・ <b>専門分野Ⅱ</b> ・ 統合分野 ・ 臨地実習			
授業科目	成人看護学方法論Ⅲ	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 30 時間/ 15 回			
授業の種類	<b>講義</b> ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・ 選択	年次・開講時期	2 年次・前期	
履修条件	有 ・ <b>無</b> ( )			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 ( 糖尿病看護認定看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 糖尿病看護認定看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 感染管理認定看護師 )		
		<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
学習目的と到達目標				
<b>〈学習目的〉</b> 慢性の経過をたどる成人の特徴を理解し、セルフケア能力や QOL の向上を目指した看護方法を学ぶ。				
<b>〈到達目標〉</b> 1. 慢性的な健康障害を持つ成人期にある対象が理解できる。 2. 糖代謝障害を持つ成人の特徴を理解できる。 3. 糖代謝障害を持つ成人への看護を理解できる。 4. 呼吸機能障害を持つ成人の特徴を理解できる。 5. 呼吸機能障害を持つ成人への看護を理解できる。 6. 肝機能障害を持つ成人の特徴を理解できる。 7. 肝機能障害を持つ成人への看護を理解できる。 8. 腎機能障害を持つ成人の特徴を理解できる。 9. 腎機能障害を持つ成人への看護を理解できる。 10. 身体防御機能障害を持つ患者の看護 (HIV/AIDS 患者の看護)				
授 業 計 画				
回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	慢性期にある患者の看護	慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者の理解 1. 慢性病患者の経験する無力感 2. 病みの軌跡と看護	講義	
2	糖代謝機能障害を持つ成人の看護①	糖代謝機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護	講義	
3	糖代謝機能障害を持つ成人の看護②	糖代謝機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護	講義	
4	糖代謝機能障害を持つ成人の看護③	糖代謝機能障害を持つ成人の看護 1. 糖代謝機能障害患者の看護 自己血糖測定演習	講義 演習	
5	呼吸機能障害を持つ成人の看護①	呼吸器のフィジカルアセスメント 呼吸機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護	講義	



回数 (1回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
5	呼吸機能障害を持つ成人の看護①	1. 呼吸機能障害の症状アセスメントと看護 2. 呼吸機能検査と看護	講義	
6	呼吸機能障害を持つ成人の看護②	呼吸機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護	講義	
7	呼吸機能障害を持つ成人の看護③	呼吸機能障害を持つ成人の看護 1. COPD 患者の看護 2. 慢性呼吸不全患者の看護	講義	
8	肝機能障害を持つ成人の看護①	肝機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護 1. 肝機能障害の症状に対する看護 2. 肝機能検査と看護	講義	
9	肝機能障害を持つ成人の看護②	肝機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護	講義	
10	肝機能障害を持つ成人の看護③	肝機能障害を持つ成人の看護 1. 肝炎患者の看護 2. 肝硬変患者の看護	講義	
11	腎機能障害を持つ成人の看護①	腎機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護 1. 腎機能障害の症状に対する看護 2. 腎機能検査と看護	講義	
12	腎機能障害を持つ成人の看護②	腎機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護	講義	
13	腎機能障害を持つ成人の看護③	腎機能障害を持つ成人の看護 1. 腎庇護のための生活指導 2. 慢性腎不全患者の看護	講義	
14	身体防御機能障害を持つ患者の看護 (HIV/AIDS 患者の看護)	身体防御機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護 1. 身体防御機能障害の症状に対する看護 2. 抗 HIV 療法 身体防御機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護 ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症の病気に応じた援助	講義	
15	終講試験 筆記 (60 分)			
授業内訳	講義 14 回 (28 時間) 試験 1 回 (2 時間)			
準 備 学 習 等				
<p>&lt;予習について&gt; テキストの該当箇所を熟読し、授業に臨むこと。各講師の提示した課題においては、明示された内容に取り組むと同時に自身の課題を持ち授業に臨むこと。 各機能障害が示されている臓器の解剖生理や病態生理については既習内容を再学習し、授業に臨むこと。</p> <p>&lt;復習について&gt; 授業内容の復習し、理解を深めること。引用参考文献にも触れて学習を深めると良い。</p>				
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			
テキスト	系統看護学講座 専門 5 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門 6 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門 10 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門 9 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門 12 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門 11 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 ナーシンググラフィカ 25 セルフマネジメント メディカ出版			

参考図書	宮脇郁子他編著：看護実践のための根拠がわかる成人看護技術慢性期，メディカルフレンド社	
備考	授業内容の進捗状況や他の科目との関連より、授業内容を変更する場合がある。	
国家試験出題基準	必須問題 目標Ⅲ-10-A-g～l 目標Ⅲ-11-A-c～t 目標Ⅲ-11-B-a, c 目標Ⅲ-11-C-a～d 目標Ⅳ-13-A-a～c 目標Ⅳ-16-F-a～i 人体の構造と機能 目標Ⅰ～Ⅲ-9-A～B 目標Ⅰ～Ⅲ-10-A～C 目標Ⅰ～Ⅲ-11-B-f 目標Ⅰ～Ⅲ-12-A-a～b 目標Ⅰ～Ⅲ-12-B-a～c 目標Ⅰ～Ⅲ-13-A～B 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅲ-4-C-g 目標Ⅲ-4-D-b 目標Ⅳ-5-A-a～g 目標Ⅳ-7-D-a～d 1 目標Ⅳ-10-C-a, b 目標Ⅳ-13-A-a, f	健康支援と社会保障制度 目標Ⅲ-8-B-b 成人看護学 目標Ⅲ-6-A, B, C, D 目標Ⅶ-10-A～C 目標Ⅶ-12-A-a, b, I, 目標Ⅶ-13-A～C 目標Ⅶ-13-D-a～c 目標Ⅶ-14-A～D

科目番号 46

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・ <b>専門分野Ⅱ</b> ・ 統合分野 ・ 臨地実習			
授業科目	成人看護学方法論Ⅳ	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 30 時間/ 15 回			
授業の種類	<b>講義</b> ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	<b>必修</b> ・ 選択	年次・開講時期	2 年次・後期	
履修条件	有 ・ <b>無</b> （ ）			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		<b>有</b> ・ 無 （皮膚・排泄ケア認定看護師）		
		<b>有</b> ・ 無 （ 看護師 ）		
		<b>有</b> ・ 無 （がん性疼痛認定看護師 ）		
		<b>有</b> ・ 無 （がん化学療法看護認定看護師）		
		<b>有</b> ・ 無 （ 看護師 ）		
学習目的と到達目標				
〈学習目的〉 回復の経過をたどる成人の特徴を理解し、障害への適応と社会復帰への看護方法を学ぶ。 リハビリテーション看護の概念を理解し、その人らしい生活の再構築を支援していくことを学ぶ。 がん患者とその家族を理解し、がんとともにその人らしく人生を過ごすための看護方法を学ぶ。 終末の経過をたどる患者とその家族を理解し、全人的苦痛を緩和し、患者・家族の QOL 向上のための看護方法を学ぶ。				
〈到達目標〉 1. リハビリテーション看護の定義・役割・看護援助の実際が理解できる。 2. 身体の一部を喪失した成人の特徴を理解できる。 3. 身体の一部を喪失した成人への看護を理解できる。 4. がん患者とその家族の特徴を理解できる。 5. がん患者への看護を理解できる。 6. 終末期にある患者とその家族の特徴を理解できる。 7. 終末期にある患者とその家族への看護を理解できる。				
授 業 計 画				
回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	身体の一部を損傷した人の看護	1) リハビリテーション看護とは (1) 障害とは (2) リハビリテーション看護の役割 2) 運動機能障害を持つ成人の身体的・心理的・社会的特徴と看護	講義	
2	身体の一部を喪失した成人の看護	3) 運動機能障害を持つ成人の看護 (1) 脊髄損傷患者の看護 4) 身体の一部を喪失した成人の身体的特徴と看護 5) 身体の一部を喪失した成人の心理・社会的特徴と看護 (1) 障害受容への援助 (2) 障害の改善と克服への援助	講義	

回数 (1回 90分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
3・4	身体の一部を喪失した成人の看護	1) 大腸切除およびストーマ造設に伴う成人の看護 (1) 人工肛門造設術を受けた成人の看護 2) 術後合併症の予防と回復への援助	講義	
5	身体の一部を喪失した成人の看護	1) ストーマサイトマーキング 2) ストーマ装具交換	演習	
6・7・8	がん患者の看護	1) がんを取り巻く現況 (1) がん疫学データの動向 (2) がんサバイバーシップケア (3) がんリハビリテーション 2) がん患者の理解 3) がん治療における看護の役割 (1) 化学療法患者への看護 (2) 放射線療法患者への看護 4) がんに伴う苦痛と看護師の役割 (1) 疼痛 (2) 心理・社会的苦痛	講義	
9・10	がん患者の看護 主ながん患者の看護	1) 主ながん患者の看護 (1) 肺がん患者の看護 (2) 性・生殖器疾患患者の看護 ・乳がん、子宮がん ・前立腺がん	講義	
11・12 13・14	終末期にある人の看護	1) 終末期看護の概念 (1) 死の概念 (2) 終末期にある対象の療養の場 2) 終末期にある対象の特徴と看護 (1) 身体的変化と症状マネジメント (2) 心理的な特徴とケア (3) 社会的な特徴とケア (4) スピリチュアルケア (5) 死の準備教育 3) 終末期にある対象の家族の特徴と看護 (1) 悲嘆のプロセス (2) 看取りをする家族への支援 (3) 遺族ケア 4) 緩和ケアチームアプローチ	講義	
15	終講試験 筆記 (60分)		試験	
授業内訳 講義：13回 (26時間) 演習：1回 (2時間) 試験 1回 (2時間)				
準備学習等				
<予習について> ・各看護に関連した「人体のメカニズム」「疾病と治療」を復習しておくこと。 ・基礎看護学目的対象論、成人看護学目的対象論の内容の復習をしておくこと。				
成績評価の方法	筆記試験・レポート (100%)			
テキスト	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[5]消化器	医学書院 2019
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[10]運動器	医学書院 2019
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[7]脳・神経	医学書院 2019
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学[9]女性生殖器	医学書院 2019

テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院	
参考図書	国民衛生の動向 成人看護学 がん患者の看護 廣川書店	
備考	ストーマサイトマーキングの演習では装具を 48 時間装着し擬似オストメイト体験をする。がんサバイバーについての学習内容もふまえ、ボディイメージの変容とオストメイトの社会生活についても考える機会とする。	
国家試験出題基準	人体の構造と機能 目標Ⅰ～Ⅲ-4-A～C 目標Ⅰ～Ⅲ-10-A～C 目標Ⅰ～Ⅲ-11-B～e 目標Ⅰ～Ⅲ-16-A～g 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅲ-4-C-d 目標Ⅳ-7-C- c 目標Ⅳ-11-A- h 目標Ⅳ-14-A-d	成人看護学 目標Ⅳ-7-A～E 目標Ⅴ-8-A～D 目標Ⅵ-9-A～C 目標Ⅶ-19-A～D 目標Ⅶ-21-A～D

科目番号 47

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野 ・ 専門分野Ⅰ ・ 専門分野Ⅱ ・ 統合分野 ・ 臨地実習			
授業科目	成人看護学演習Ⅰ	科目責任者		
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 15 時間/ 7 回			
授業の種類	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技			
必修・選択	必修 ・ 選択	年次・開講時期	2 年次 ・ 前期	
履修条件	有 ・ 無 （ ）			
担当教員名		実務経験の有無・実務経験内容		
		有 ・ 無 （糖尿病看護認定看護師 ）		
		有 ・ 無 （ 看護師 ）		
		有 ・ 無 （ 看護師 ）		
		有 ・ 無 （ 看護師 ）		
学習目的と到達目標				
〈学習目的〉 成人慢性期患者の看護過程展開の方法を学び、看護を実践できる基礎的能力を習得する。				
〈到達目標〉 1．紙上事例を通して、看護過程の展開方法がわかる。 2．紙上事例を通して、成人期・慢性期の特徴をふまえた看護過程の展開がわかる。 3．紙上事例を通して、成人を対象とした個別指導技術を学ぶ。				
授 業 計 画				
回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	事例理解	1) 看護過程の復習 2) 効果的な GW のすすめ方 3) 紙上事例の紹介	講義 GW	
2	糖尿病患者の看護アセスメントの視点	1) 糖尿病患者の看護アセスメントの視点	講義	
3・4	ヘンダーソンの基本的欲求項目ごとのアセスメント	1) 看護過程 GW	演習 GW	
5	糖尿病患者の看護アセスメントの視点	1) 看護上の問題点問題点 2) アセスメントに用いる理論	講義	
6	看護計画立案 指導案作成	1) 看護過程 GW	演習 GW	
7	ロールプレイ	1) 指導場面のロールプレイ	演習	
8	終講レポート			
授業内訳	講義 3 回（6 時間） 演習 4 回（8 時間） 終講レポート（1 時間）			

準 備 学 習 等		
<p>&lt;予習について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護方法論Ⅳ（看護過程）の基本を復習しておくこと。</li> <li>・疾病と治療（内分泌・代謝疾患：糖尿病）の学習をしておくこと。</li> <li>・成人方法論Ⅲ（慢性期にある患者の看護, 糖代謝機能障害を持つ成人の看護）を学習しておくこと。</li> <li>・成人目的対象論の内容、成人看護方法論Ⅰの内容を復習して臨むこと</li> </ul>		
準 備 学 習 等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護学方法論Ⅰ - ②（教育・指導）の内容を復習しておくこと。</li> </ul>		
成績評価の方法	看護過程（80％）    ロールプレイ（20％）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護過程をつかったヘンダーソン看護論の実践 ヌーベルヒロカワ 看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 慢性看護 メヂカルフレンド社	
参考図書	ナーシンググラフィカ セルフマネジメント メディカ出版 看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 慢性看護 メヂカルフレンド社	
備 考	看護過程の基本的な展開方法を学ぶ。アセスメントから対象に応じた看護援助を導く過程を学ぶ。	
国家試験出題基準	人体の構造と機能 目標Ⅰ～Ⅲ-15 - C - f 疾病の成り立ちと回復の促進 目標：Ⅳ-8-B-b 基礎看護学： 目標Ⅱ-3-B～C	成人看護学 目標Ⅲ-6-A～C 目標Ⅶ-14-A-b 目標Ⅶ-14-B-a, b 目標Ⅶ-14-C-a～c 目標Ⅶ-14-D-b～f

科目番号 48

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・ <b>専門分野Ⅱ</b> ・ 統合分野 ・ 臨地実習				
授業科目	成人看護学演習Ⅱ		科目責任者		
単位/時間数/授業回数	単位/ 30 時間/ 15 回				
授業の種類	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技				
必修・選択	<b>必修</b> ・ 選択		年次・開講時期	2 年次・後期	
履修条件	有 ・ <b>無</b> ( )				
担当教員名			実務経験の有無・実務経験内容		
			<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
			<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
			<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
			<b>有</b> ・ 無 ( 看護師 )		
学習目的と到達目標					
<b>〈学習目的〉</b> 急性期にある成人の看護過程展開の方法を学び、看護を実践できる基礎的能力を習得する。 健康障害をもつ成人の事例患者に適応される、看護の問題解決の思考過程および看護技術を、患者体験を含めて習得する。					
<b>〈到達目標〉</b> 1. 紙上事例を通して、周手術期にある成人の看護過程を展開し、術後の回復過程がわかる。 2. 紙上事例を通して、術後の看護計画を立案し、事例の模擬患者に必要な看護実践ができる。 3. 周手術期にある対象に対して、適切な臨床判断を行う為の基盤となるフィジカルイグザミネーション技術を身につける。 4. 習得した援助技術を用いて事例の状況に的確な看護実践ができる。 5. グループワークを通して、自身や他者の行った周手術期患者への援助を振り返り、援助の良い点や改善点を検討することができる。					
授 業 計 画					
回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容		授業方法	担当
1	クリティカル領域における身体の理解と判断	1) フィジカルアセスメントの目的 2) クリティカルケアを必要とする患者のフィジカルアセスメン		講義	
2	フィジカルアセスメントの基本技術 ① 呼吸系	1) 呼吸器系 解剖の復習 2) 胸郭の部位と指標線の位置 3) 正常な呼吸音 4) 異常な呼吸音の種類 5) 呼吸音の聴診部位		講義 演習	
3	フィジカルアセスメントの基本技術 ② 循環系	1) 心音のメカニズム 2) 4つの弁領域 3) 心雑音 4) 過剰心音		講義 演習	
4	フィジカルアセスメントの基本技術 ③ 消化器系	1) 腹部の体表区分 2) 腹部アセスメントの留意点 3) 腹部全体の視診での異常所見 4) 腸蠕動音の聴診 5) 腹部の打診、触診		講義 演習	



回数 (1回 90分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
5	術後患者のフィジカルアセスメント	1) 看護過程演習の事例の術後1日目を想定したバイタルサイン測定	演習	
6	心肺蘇生法	1) 一次救命処置の意義 2) 心停止のアルゴリズム 3) 一次救命処置の実際 (AED 含む) 4) 二次救命処置の実際 (気管内挿管の介助)	講義 演習	
7	看護過程 ①	事例による周手術期患者の看護過程の展開 1) 事例紹介 2) 演習の進め方 3) 急性期のアセスメントにおける重要な視点について 一次アセスメント (全体像)	講義 GW	
8	看護過程 ②	アセスメント	講義 GW	
9	看護過程 ③	アセスメント	講義 GW	
10	看護過程 ④	アセスメント	講義 GW	
11	看護過程 ⑤	アセスメント アセスメントの統合と問題点抽出	講義 GW	
12	看護過程 ⑥	アセスメント ◎中間提出	講義 GW	
13	看護過程 ⑦	アセスメント、問題点抽出の課題について (中間提出後の課題提示)	講義 GW 個人ワーク	
14	看護過程 ⑧	アセスメント、問題点抽出の課題	講義 GW 個人ワーク	
15	看護過程 ⑨	看護目標、看護計画立案 (個人ワーク)	講義 GW 個人ワーク	
授業内訳	講義2回 (4時間) 講義と演習・グループワークを含む12回 (24時間) 演習1回 (2時間)			
準備学習等				
<b>&lt;看護過程&gt;</b> ・成人方法論Ⅱの講義内容の復習 ・事例疾患の解剖生理学、治療 (術式)、麻酔学、関連する検査について (事前課題の提示あり) ・看護過程についての講義尾の復習 <b>&lt;フィジカルアセスメント&gt;</b> ・基礎看護方法論Ⅲのフィジカルアセスメントの内容を復習しておくこと ・呼吸器・循環器・消化器の解剖生理について復習しておくこと				
成績評価の方法	看護過程 (80%) 演習提出物 (20%)			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護過程をつかったヘンダーソン看護論の実践 ノーベルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			
参考図書	看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 急性・クリティカル看護 メディカルフレンド社 高齢者と成人の周手術期看護 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版			

備 考	手術を受ける対象の看護過程の展開を学ぶ。3 年次の急性期の実習を想定し、術後 1 日目のバイタルサイン測定を演習で学ぶ。	
国家試験出題基準	必修問題 目標Ⅳ-16-G-a～e 人体の構造と機能 目標Ⅰ～Ⅲ-11-B-a, b, h 目標Ⅰ～Ⅲ-12-A-a, b 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅲ-4-C-a 基礎看護学 目標Ⅱ-3-B～C	成人看護学 目標Ⅱ-3-A-a～c 目標Ⅱ-3-B-a, b 目標Ⅱ-3-C-a～c 目標Ⅱ-4-A-a, b 目標Ⅱ-4-B-a～f 目標Ⅱ-5-A-a～f 目標Ⅱ-5-B-a～d 目標Ⅱ-5-C-a～d 目標Ⅱ-5-D-a～e 目標Ⅱ-5-E-a～d 目標Ⅶ-12-A-b 目標Ⅶ-12-C-c